

〔大城勇太議員 登壇〕

○6番 大城勇太君 皆さんおはようございます。大先輩の後に質問をするのはとても心苦しいところではありますが、また一般質問させてください。

1番、本町における農業について問う。（1）現在、本町の農業従事者はどれくらいか。（2）高齢化している農業者、担い手不足などへの対策等はあるか。（3）本町のブランド化している農畜産物はどのようなものがあるか。（4）6次産業化について本町での現状はどうか。（5）無農薬野菜、有機野菜、オーガニック野菜の本町における栽培農家はどれくらいいるか。（6）養豚農家についての種豚導入の補助金はあるか。

大きい2番、町内小中学校における問題について。（1）現在、文部科学省が必要に応じ適切な配慮を求めている置き勉強について、本町はどのように考えるか。（2）本町小中学校におけるクーラー整備事業に伴い、各学校の遮光カーテン等の設置状況はどうなっているか。（3）学習支援員を各学年に配置できないか。（4）スポーツ、武道、文化、芸術などの県外派遣補助の拡充はできないか。

大きい3番、町内の河川環境対策について。（1）南部農林高校付近の河川、階段でおりられる場所について、自転車やバイクなどが河川に捨てられている。県に撤去を要請できないか。（2）河川は人だけがおりられるようなステンレス製柵等の設置を要請できないか。（3）その周辺の雑草の草刈りも可能か。

大きい4番、町民の健康増進で長寿のまちづくりを。（1）天然温泉施設をつくれませんか。ご答弁よろしく願います。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の本町における農業について問うの（1）についてお答えいたします。平成27年1月1日現在における農業委員会選挙人名簿での資料によれば、農業従事者は1,148人となっております。

（2）についてお答えします。担い手については、町内のJAおきなわ南風原津嘉山支店と意見交換を行い、新規就農者の確認を行い、新規就農者への支援事業として農業次世代交付金事業、沖縄県就農一貫支援事業等を活用する支援策を講じるなど、新規就農しやすい環境づくりに取り組んでおります。

（3）についてお答えします。拠点産地認定を受けている農産物は、カボチャ、ストレッチャー、スターフルーツの3品目です。また町産ヘチマをはえばる美瓜と命名し、特産品として位置づけております。畜産物は豊かな自然の中で育まれた豚、沖縄キビまる豚として南風原良品に認定をしております。

（4）についてお答えします。規格外のカボチャをカボチャスープ、カボチャスープの素、ジャムに加工し販売、またマンゴーについても規格外品をジャム、ジュースに加工し販売しております。

（5）についてお答えします。町内において無農薬野菜の栽培農家は把握しておりませんが、自然農法の栽培農家が1軒あります。また化学肥料及び農薬を3割低減した環境にやさしい農業の実践者として、県知事が認定したエコファーマー認定農家は7人おります。

（6）についてお答えします。平成24年から28年まで県の一括交付金がありましたが、現在、補助金はありません。

大きい質問事項3点目の町内の河川環境対策について。（1）（2）（3）については、関連しますので一括してお答えします。河川管理者の県へバイク等の撤去、柵の設置、草刈り等については要請してまいります。

質問事項4点目の町民の健康増進で長寿のまちづくりをについてお答えします。町が天然温泉施設を整備することは大変厳しいと考えております。以上であります。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項2点目の町内小中学校における問題についての1点目についてでございます。現在、各学校において水彩道具等の学習用具を教室のロッカーで保管するなど、携行品が過重とならないように必要に応じた適切な配慮がなされております。

（2）でございます。現在、日差しが強い教室には既にカーテンの設置、それから窓ガラスへの断熱フィルムを施工済みでございます。

（3）でございます。本町では、児童生徒へ基礎学力を定着させることを目的に学習支援員を配置してきました。平成30年度全国学力・学習状況調査において、小学校では全ての教科において全国平均を上回り、中学校においても全ての教科において県平均を上回

12月14日（第2号）一般質問

り、国語B、数学Aにおいては全国平均を上回る成果が出ております。そのことから、引き続き各小学校への2名の学習支援員配置を予定しております。なお、学習支援員の配置については、学校長の判断でそれぞれの学級への配置がなされておりますので、今後も同様な対応をしていきたいという考えでございます。

続きまして、（4）でございます。本町では、小中学校において、小中学生に各種の大会などで標準記録を上回るもの、それから県の選抜の一員、文化的教育活動の県代表として派遣または推薦されたものを対象に南風原町県外等派遣に関する助成金交付要綱に基づいて補助を行っております。派遣可能な大会や補助率等のさらなる拡大については慎重な検討が必要だと考えております。以上でございます。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。1番、本町における農業についてから再度質問したいと思います。現在、南風原町における農業従事者は年々減少傾向にあると思われましても、農林水産省が発表した農業構造形態調査によりますと、農業従事者は平均67歳、南風原町のJA津嘉山支店によると、平均年齢は70歳で、サトウキビ農家は80歳を超えているというふうに言われております。関連して、（2）の高齢化している農業者、担い手不足などについても、新規就農者の支援を行うのも、去年でも7人ぐらい新規就農者がいたんですね。それで年々高齢化しているものも含めて、南風原町では平均年齢はどのぐらいなのか、把握しているのであれば教えていただきたいのですが、よろしくお願ひします。

○議長 知念富信君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 答えします。大変申しわけないですが、平均年齢は把握しておりません。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。やはりどの農業においても、今高齢化しているわけですが、やっぱり担い手不足がどうしても、対策が全然行われていないというのが現状ですね。現在、実家のほうで養豚業をやっていますけれども、1月にドコモと提携して、タブレット端末を使って餌の管理、湿度、温度、あとは出荷時期の体重もはかれる、そして出産時期も見られるようなものを国の補助金で臨床実験を行いました。離島あたりでは牛農家、ピンポン球ぐらいの大きさの機械を子宮に入れて出産を管理するというものもでき上がっています。出産時期を把握することで、今まで六、七頭ぐらい死んでいた牛農家で事故率がゼロ%ぐらいになったという結果も出ていますので、現在、果樹野菜農家でもタブレット端末を利用して湿度、温度の管理をして、そろそろうどんこ病が出るというのが手元にメールで届くような時代になってきていますので、やはり今は一人一人がスマホを持っている時代ですので、高齢化が進む中で大量離農時代が来るともいわれている中で、是非、人間に必要な食に最も近い第1次産業をこれからもITを活用して担い手不足、そういったものについても随時推進していければと思っております。やはりブランド力に力を入れて、量より質で就農のアップをしていただき、6次産業化でまた地域活性化、無農薬野菜で町民に対する健康増進につなげていけたらと思っております。

（6）の養豚農家についての種豚導入ですけれども、現在、南風原町では牛農家に補助金を半分の、2分の1の上限50万円でしたか、というふうにやっていますけれども、今後、養豚農家にもやっていただけるような仕組みをつくっていただけるのかどうかというのをもう一度お聞きしたいのですが、よろしくお願ひします。

○議長 知念富信君 産業振興課長。

○産業振興課長 金城克彦君 今、議員のおっしゃったとおり、牛のほうへは町でやっています。養豚のほうは、牛のほうがおくれて導入したということで、養豚が平成24年から5年間、種の、豚の導入補助事業をやって、それで5年間で養豚の、豚の目的は統計造成を目的として行っていましたので、その5年間で目的といいますか、達成したという形で考えています。そしておっしゃったように、牛についてはスタートがおくれたので、今5年間かけてやっているという状況です。以上です。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 ありがとうございます。養豚農家は、1年間に30%の切りかえが必要なので、100頭いる農家であれば毎年30頭が切りかえ、200頭母豚がいる農家では60頭の切りかえが必要なので、是非牛のような50万円補助というわけではなくて、約10分の1ぐらいしかないの、養豚農家にも是非今後は支援できるような事業を組んでいけたらと思っておりますのでよろしくお願ひします。

大きい2番、町内小中学校における問題についてですけれども、現在、文部科学省がや

12月14日（第2号）一般質問

っている置き勉、ことしの10月から適切な配慮を求めているわけですが、2005年のゆとり教育の時代の合計が4,857ページ、教科書。2015年の脱ゆとり教育後は合計6,518ページの本の重さですけれども、10年前に比べて約35%重くなっているということで、自分の子供を含めて、教科書とランドセルの重さをはかってみたら、約8キロありました。ある大学の調べでは、一番重い子は9.7キロ、小学1年生の体重が21キロだとしたら、約2分の1の重さを持っているということになりますので、ちょっとそれを考えたら、今、私はユニオンのところに住んでいるんですが、自分の体重が約80キロ、半分の40キロを持って津嘉山小学校へ行けといたら多分不登校になると思います。現に2,000人を対象にアンケートととったところ、約3割が体に異変を訴えているということで、先ほど答弁していただいた中で水彩道具等の筆記用具、そういうものを含めたら10キロ以上になる。金曜日になればエプロン、上履き、そして習字セットなどを持たされたり、学期末にはプランターとか重たいものを持って歩いている子供たちも見られますので、そういったものを持たされたりしたら、子供にとっては調べによると、ユニオンから小学校まで1キロぐらい、大人にしたら約30分で、30分8キロの速度でランニングぐらいしたぐらいのものとカローリーが一緒なので、ランニングした後に勉強をしろと、ランニングした後に学校から帰って、家庭学習をしろと言われたらちょっと難しいものがあるのかなと思っております。以前、公民館で教育懇談会というのがありましたけれども、第2団地から小学校まで歩く子供が非常に少ないと。健康づくりのために歩きましょうと書いていますけれども、健康づくりのために二、三十キロの重りを持って歩いている大人は誰もいないと思います。それぐらい子供にとっては過酷なのかなと感じました。東京の小学校では、低学年では全ての教科書を学校に置いて、ランドセルもナイロン製の鞆、体ができてくる高学年から四、五年生になるとランドセルを持ち始めるという学校もありますので、そういった意味を込めて、これを是非もっとも必要に応じてやっていただけたらと思います。お隣の韓国では教科書をデジタル化したデジタル教科書ですね、2019年に日本でも随時導入していくのかなと思ってはいますが、是非子供たちの体の負担を考えても、学期末など、最後の日に集中しないように分けて持ち帰るなどの工夫をやっていただけたらと思いますので、是非よろしく願います。

あと(2)のクーラー整備事業に伴い、遮光カーテンですね。現在、新しい教室にはまだついていないのはもちろんですが、クーラー整備事業ですね、カーテンもまだまだ足りないところもあると思いますので、是非よろしく願います。この質問は、クーラーですね、じゃあ、クーラー整備事業に伴いクーラーとカーテン等の整備状況はどうなっているかというのを教えていただけたらと思いますので願います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 野原 学君 整備状況ですが、断熱フィルムの張りつけについては図書館、保健室、職員室、あと普通教室も一部張りつけている状況でございます。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 津嘉山小学校に確認したら、支援教室のカーテン設置と普通教室の一部だけしかカーテン状況がなかったもので、日差しの強い教室にはということは、強くない教室にはつけないのかという答弁になってしまうので、是非今後はつけていただくような形でよろしく願います。

(3)の学習支援員を各学年に配置できないかという質問ですが、小学校、校長先生、教頭先生、各担任の先生にお聞きしたところ、津嘉山小学校だけに限るんですが、現在、南風原町では南風原小学校に3名、残り小中学校に2名ずつの配置となっておりますけれども、3、4年生に1人、5、6年生に一人の支援だと、1週間に2回程度しか回ってこない。小学校では個々の差が激しい算数の授業に対応しているそうですけれども、先ほど答弁があったように、全国的に上回っている、県内においても上回っているというわけではなくて、先生方の行き届かないものにも支援は回らないといけないと思いますので、算数だけの支援に現在なっていると思うので、各小学校の支援員をどのような状況か把握して、今後も数学だけではなく、幅広く支援員ができるのもっとも学力のほうは上がるのかなと思っております。現在、成果のほうで人員の確保ができなければ教員免許のありなしだけではなくて、両親が小学生の子供を見ているわけですから、そういったものに緩和して、人員の確保に努めていただければ、各学年1人ずつはつけられるのかなと思っております。お隣の与那原町に確認してみたところ、各学年1人もしくは2人以上についているということで、あちらはかなり徹底した学力向上に取り組んでいるという話もお聞きしていますので、是非近隣の市町村を踏まえて、南風原町も学習支援員をもっとふやしていけたらと思っております。

12月14日（第2号）一般質問

(4)のスポーツ、武道、芸術などの県外派遣費の拡充はできないかですけれども、今回、何人かの保護者の方から連絡があったんですけれども、小学校でサッカーの大会で沖縄県でアンブロというサッカーの企画をしているところで優勝して県外に派遣だったらしんどいんですけれども、今回、中体連とか体育協会に加盟していないと補助金がないと言われて申請を断念したとお聞きしました。南風原町は現在、名古屋グランパスを誘致しているわけですので、誘致している1週間の間に9,800人、約1万人が訪れて、サッカーをしている子供たちだけではなくて、サッカー好きな大人までも貴重な体験をしているととてもうれしいという声も聞きましたけれども、直に子供たちが触れ合って、サッカーを教えてもらって、キッズエスコートというんですか、試合中に一緒にコートに上がるものは。それなども体験して、とてもモチベーションが上がって、子供たちもメーカー主催の大会で優勝したにもかかわらず、今回も優勝して県外派遣には1円も出なかったというお話を聞きました。現在、南風原町は2分の1の航空運賃の補助ですか。中体連も2分の1の補助と航空運賃の補助とお聞きしましたが、お隣の豊見城市では航空運賃、宿泊費、移動費、運搬費などの2分の1が対象となっています。南城市のほうでも、課長にお聞きしたら、中体連は航空運賃、宿泊費、食事2食が全額補助、その他の大会では航空運賃、宿泊費、食事の2食が2分の1の補助。南城市では以前の古謝市長が小学校跡地を利用して子供たちに全てを充てるイオンの借地料ですね。財源が1,000万円近く取られているので、今回南風原町は300万円ぐらいですか。どうにかこのスポーツ補助金に充てる財源を確保できないかというの、再度答弁のほうをよろしくお願いします。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 先ほどの質問ですけれども、我々のほうでもおっしゃるようないろんな財源を確保できるようにということで、今努力をしているところです。ただ実際、直接、単独の予算だけではなくて、いろいろと知恵を働かせて財源を探しているところではあるんですけれども、一定の財源が、今現在、活用させていただいている一括交付金等を含めて、財源等は持っているんですけれども、先ほど質問の説明の中で少しありましたが、必ずしも体協とかいろんなものが主催、共催でなければというところに対しては、少し我々のほうの解釈と違うところがあるのかなと感じているんですが、先ほど教育長からの説明にもありましたように、県の代表として派遣される、または推薦されるというところをもって審査させていただいているところもありますので、その辺については、再度質問があった方にご説明いただければと思います。財源等については、引き続き、こちらのほうも十分な財源が確保できるように検討はしていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 各大会の体協とかそういったものだと2分の1の補助、航空運賃のみになりますよね。航空運賃のみではなくて宿泊費、またもろもろかかるわけですから、やはり子供たちが優勝して街頭募金などを行っているのを見ていたら、街頭募金をしているひまがあれば、私の考えでは練習をもっとやっていただけたらと思いますので、子供だけでも、是非ですね、もっと航空運賃だけではなく宿泊費、また食事代までしっかり出せるような仕組みづくりを、財源を探していただけたらと思いますので、是非よろしく申し上げます。

大きい3番、町内の河川環境対策についてですけれども、津嘉山小学校と与那原警察署と一緒に地域の安全対策として津嘉山のほうを回りましたけれども、やっぱりこの遊歩道というんですか、遊歩道を歩いていると小さな子供とかを連れて歩くお父さん方、また高校生、お年寄りのウォーキングをする方もそちらはいますので、是非、川をおりたところには自転車やバイクなどが捨てられているというのが見られていますので、階段でおりるということは川に触れ合って、景観重視でですね、少しでも触れ合えるようにということで階段を設置したと思いますけれども、簡単に自転車やバイクが捨てられるのであれば、逆にそれも問題なのかなと思っておりますので、是非ステンレス製の柵、公園などにあるような自転車とかバイクが発進できるような形のステンレス製の柵も設置して、今後はやっていけたらと思っております。

最後に、町民の健康増進で長寿のまちづくりをですけれども、今回、環境施設組合のほうに派遣ということで、環境の杜ふれあいの天然温泉施設を見てきましたけれども、案外需要の多さにびっくりしました。環境の杜ふれあいの温泉施設では、混み合う時間帯は入浴制限をかけるぐらい人が多いそうなので、長寿のまちにあった南風原町だからこそ、天然温泉が必要かなと思っております。私、養豚業をやっているんですけれども、大体平均10匹ぐらいの赤ちゃんが生まれます。やはりその中には衰弱してすぐに歩けない、立ち上がることもできない子豚も生まれてくるわけでありましてけれども、38度ぐらいのお湯に10

12月14日（第2号）一般質問

分間つけると、子豚の赤ちゃんも元気になってすぐ歩けるようになります。それぐらい体を温めるということは万病予防ではないですけれども、体温を1度上げることによって5倍から6倍の免疫力がつくということもありますので、国保の赤字も少しでも緩和できるんじゃないかなと思っております。ここからは提案ですけれども、黄金森公園に天然温泉施設をつくって、レストランもつくって、町内の無農薬野菜、そこで地産地消をすれば、もっとすばらしい長寿のまちづくりができるのかなと思っております。ちなみにユインチホテルが約1億3,000万円で温泉を掘っております。あと龍神の湯、瀬長島ですね、あちらも1億円ちょっとで天然温泉施設を掘っておりますので、是非最後に、町長に天然温泉に入っていることを想像して、天然温泉がつくれるか答弁していただきたいと思っておりますけれども、是非よろしく申し上げます。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 答えいたします。私も温泉は大好きでございまして、大城議員の今回のご質問に対しましては、理解はできますけれども、非常に厳しいなという思いが正直でございまして。と申しますのも、まず沖縄県で温泉を掘ると、情報によりますと、何千メートルという形で地下を掘らないとなかなか温泉にたどり着かないというお話もありますし、1億円、2億円の経費をかけて町単独でそれが可能かどうかというのを考えますと、やはりほかにも課題が山積しているわけでございますので、そういったことから考えますと、なかなか難しいだろうなというのが正直な思いでございまして。以上でございます。

○議長 知念富信君 6番 大城勇太議員。

○6番 大城勇太君 町長ありがとうございます。是非、この環境の杜ふれあいでは入浴施設がありますので、佐敷の猿人の湯は山の中でも1,000メートルで1億円の費用がかかると言われていますけれども、1億3,000万円ぐらいでは出たとお聞きしていますので、国保の赤字の17億円を考えるとできるのかなと考えておりますので、是非今後も検討していただけたらと思っております。ありがとうございます。

ことし最後の質問になりましたが、やはり町民は夢を描き、その夢を実現させるのが我々の役目だと思っておりますので、今後とも輝く南風原町のために、是非来年もよろしく申し上げます。これで一般質問を終わります。ありがとうございます。